

■青味大根

青味大根とは京野菜のひとつ。文化・文政の頃(1804~1829)に、葛野郡朱雀村(現在の下京区朱雀)において、今は絶滅した郡大根の異変種として作出されたと伝えられる。根部が1~2屈曲する中生系のだいこんで、地上露出部は緑色を呈する。

船坂地域での栽培はパセリと同様、大阪市場より種を持ち帰ったのが始まりである(昭和28年頃)。現在では、青味大根、時無大根や中抜き大根などの料亭用の小さいだいこんを生産し、大阪市場に出荷している。



■花き類

戦後、野口透氏(明治41年生)が復員し、地域の立地条件を活かした花の栽培が始まった。

船坂の花き栽培の最盛期は昭和25年~35年頃で、カーネーション、小菊、アスター等を主力に栽培し、神戸や大阪市場に出荷されていた。栽培農家は10戸ぐらいで、野菜栽培農家と花き栽培農家に二分されていた。

しかし、昭和30年代後半からは、連作障害による品質低下や他産地の急増により衰退してしまった。



船坂では、有馬温泉向けとして農産物の栽培が発展し、生産の拡大と共に西宮や大阪への出荷が始まったとされている。輸送費用の削減のため、重量の小さい作物の生産が盛んであった。

(3) 集落の現状

<1995年農業センサスより>

総農家数	専業別農家数			
	販売農家	専業	1兼	2兼
36戸	21戸	11戸	11戸	14戸

経営耕地面積規模別 (ha)				
自給	0.3未満	0.3~0.5	0.5~1.0	1.0~2.0
15戸	2戸	5戸	12戸	2戸

家族構成別農家数				
世帯主夫婦と同居あつぎがいる	単身世帯主と同居あつぎ夫婦がいる		その他の世帯	
	同居あつぎ夫婦がいる	同居あつぎ夫婦がいる	他所あつぎがいる	
23戸	10戸	2戸	11戸	1戸

農業労働力保有状態別農家数		
男子農業専従者1人以上	60歳未満男子農業専従者がいる	農業専従者は女子だけ
20戸	3戸	2戸

農家人口 ([] 販売農家)											
計	男					女					
		15~29	30~59	60~64	65歳以上		15~29	30~59	60~64	65歳以上	
138戸	68戸	5戸	28戸	6戸	24戸	70戸	8戸	28戸	6戸	23戸	
[84]	[43]	[2]	[19]	[3]	[16]	[41]	[4]	[15]	[5]	[12]	

農業就業人口 ([] 販売農家)													
計	男						女						
		15~29	30~39	40~59	60~64	65歳以上		15~29	30~39	40~59	60~64	65歳以上	
63戸	31戸	1戸	2戸	3戸	5戸	20戸	32戸	1戸	2戸	10戸	5戸	14戸	
[47]	[23]	[0]	[2]	[3]	[3]	[15]	[24]	[1]	[2]	[7]	[5]	[9]	

経営耕地面積		
計	田	畑
1511a	978a	532a

借入耕地		貸付耕地	
農家数	面積	農家数	面積
2戸	34a	2戸	60a

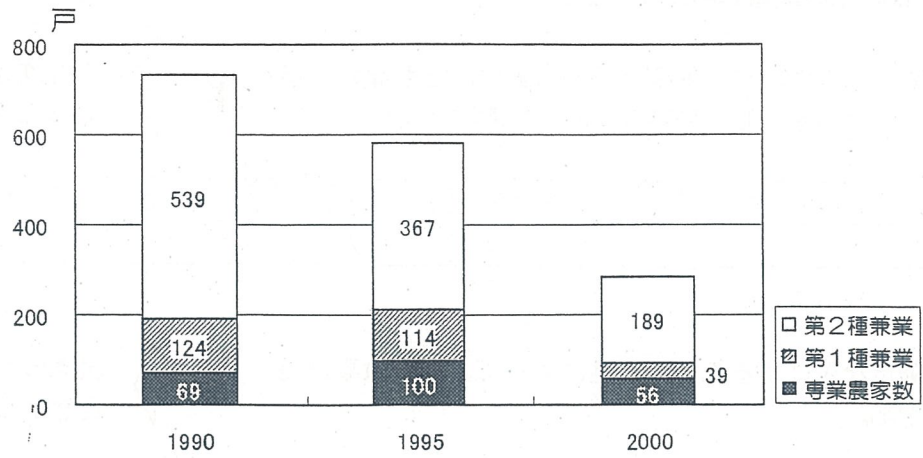
耕作放棄地
52a

作物種類別収穫面積				
計(延べ)	稲	いも類	野菜類	苗木類
1324a	587a	4a	723a	10a

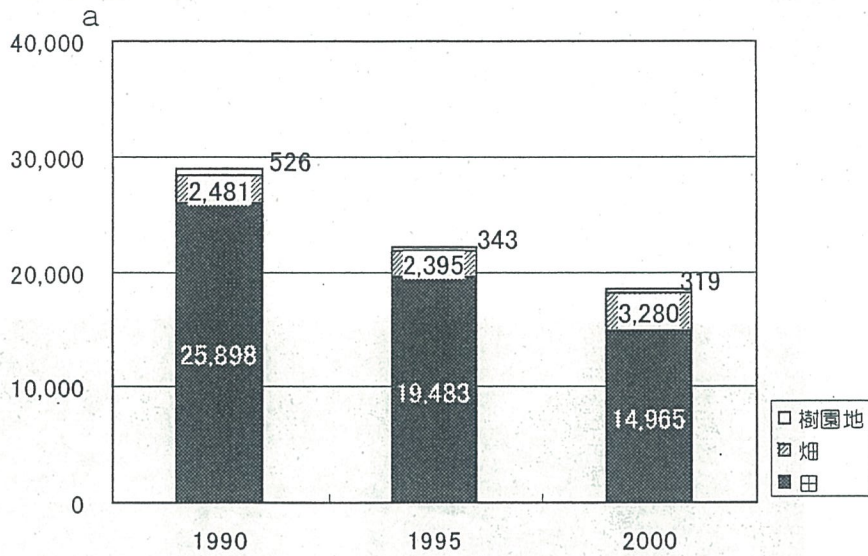
施設(ハウス)	
農家数	面積
10戸	86a

◆西宮市における専業兼業別農家戸数の推移

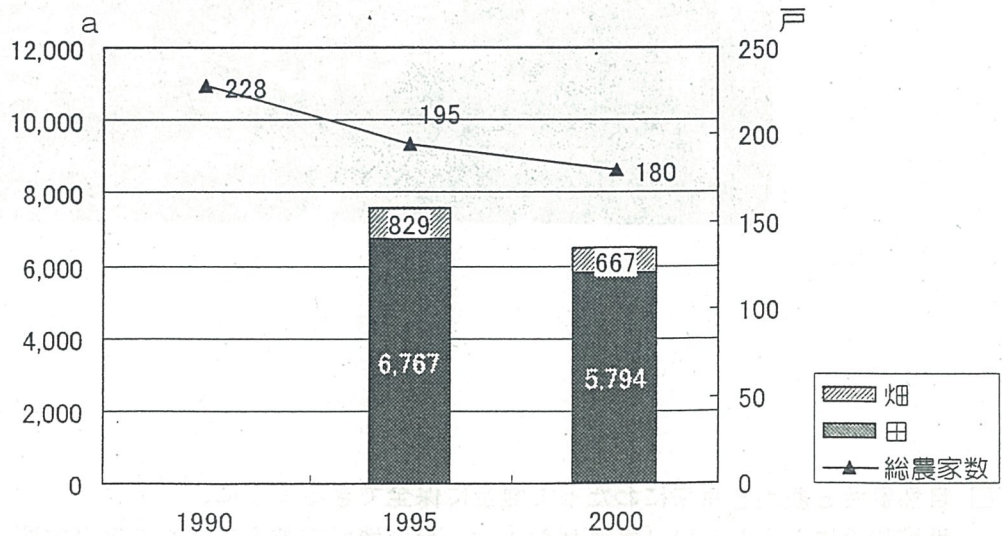
<西宮市統計時報より>



◆西宮市における経営耕地面積の推移



◆山口地区における農家戸数と経営耕地面積の推移



(4) 船坂地域の農業における問題点

- 兼業農家の増加や、生産農家の高齢化にともない、年々生産農家が減少し、野菜の生産量も激減している。



産地の衰退
農業従事者の不在

船坂野菜出荷組合員	59歳以下	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
16人	1人	1人	1人	5人	8人

- 高齢化などによる担い手不足によって、耕作放棄ほ場が増加。



農地の荒廃
自然破壊

- 農地の管理ができなくなってきたために集落外の人々の農地利用が増加。



所有者と利用者とのトラブル
道、駐車場、水の問題



- 自然資源と農地を将来にわたって健全に保全できるように、地域特性にふさわしい「集落ビジョン」を、地域で考えていくことが大切。